

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育内容総論 General theory of early childhood education curriculum		1年	前期	火曜日・3時限、5時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択 (教職課程必修(保育士養成課程・幼稚園教諭二種))		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
教育方法論 教育課程概説				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育原理				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
藤原保利	本館2階	火・水・木・金の9時から16時(授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
幼稚園・保育所の1日、保育内容の構造、保育所保育指針・幼稚園教育要領が示す保育内容、3歳未満、3歳以上の子どもの保育内容、遊びと保育内容、子どもの発達観等々を題材にして、子どもの最善の発達を促す保育内容、方法を考える。				
授業の到達目標				
○保育所保育指針、幼稚園教育要領が示す保育内容について正確に理解することができるようにする。○子どもの成長、発達に関する標準的な発達の姿(社会的、身体的、知的な面など)を踏まえて、一人一人の発達の特質に応じた環境を構成し、適切な援助・指導ができるようにする。○遊びは保育の基本であることを十分に踏まえて遊びによる総合的な指導・援助ができるようにする。				
授業の方法				
基本的には、板書を中心とした講義形式で行う。単元終了毎に小テストを行う。宿題、課題を課し、レポートの提出を求める。「調べる・考える」学習を重視した授業の展開を図る。				
学習の成果				
○保育所保育指針、幼稚園教育要領が示す保育内容の原則、保育の原理、保育の内容とその構成を理解し、保育の現場で活用することができる。○乳幼児期の発達の特性、発達課題について十分な知識を習得、活用して、一人一人の発達の特性に応じた保育をすることができる。「なぜ、遊びによる保育なのか」、「遊びとは何か」、そして「遊びと学習」との関連性について十分に理解して、遊びによる総合的指導をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の概要及び進め方説明します、レポートのテーマ及び提出期限等について説明			
第2回目	今日の保育の課題 子どもと少子化をめぐる課題 子育て支援をめぐる課題			
第3回目	保育内容の構造 保育内容とは 保育所保育指針が示す内容 幼稚園教育要領が示す内容 <小テスト>			
第4回目	3歳未満の子どもの保育内容 家庭との連携・関係諸機関との連携 健康・安全・事故防止			
第5回目	3歳以上の子どもの保育内容 3. 4. 5. 6歳児にふさわしい園生活と保育内容			
第6回目	保育課程と指導計画 教育課程・保育課程 指導計画の作成と展開 <小テスト>			

第7回目	子どもの発達のとらえ方	子ども理解について	保育所保育指針・幼稚園教育要領における発達観
第8回目	保育における指導・援助	環境を通して行う保育	保育方法の原理と指導・援助のあり方
第9回目	遊びと保育内容	遊びとは何か	遊びのとらえ方 遊びと学習 遊びにおける保育者の役割 <小テスト>
第10回目	生活と保育内容	子どもの「生きる力」と生活習慣	生活習慣の形成と保育内容 生活習慣の形成と保育者による援助
第11回目	幼児教育と小学校教育の連携と接続 幼保・小との連携 小学校学習指導要領		
第12回目	幼保・小学校との連携	協働的な学びを活かしたプロジェクト・アプローチ	「生活科」「総合的な学習の時間」
第13回目	保育の評価	評価の意義	評価の種類と方法 保育実践の評価 <小テスト>
第14回目	保育者に求められる姿	子どもの育ちの変化と子どもを取り巻く環境の変化	全他の把握と個への援助の連携の確立
第15回目	定期試験(解説とまとめ)		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の事柄で評価する。授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。(詳細はガイダンス時に説明する。)
レポート		20%	詳細に課題を探求し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。(詳細はガイダンス時に説明する)
調査報告書			
小テスト		20%	単元終了時に小テストを4回実施する。授業や教科書に書かれている内容が十分に理解されている。(詳細はガイダンス時に説明する)
中間・学期末試験		50%	論述式である。設問に対する要求を満たし内容構成もきちんとしており、更に、授業内容及び教科書に書かれている範囲を超え、自己の考え方も示されている。(詳細はガイダンス時に説明する)
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
使用テキスト:「保育原理」待井和江編 ミネルバ書房 参考図書:「新・保育内容総論」太田悦生編(株)みらい			
履修上の心得・ルール			
目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等の持ち込み禁止。			